

資料

資 料 (1)

国際緊急援助隊 (JMTDR) 第6回研修会関係

第 6 回 研 修 会 プ ロ グ ラ ム

日	時 間	プ ロ グ ラ ム	
4日 (金)	18:00-19:00	夕 食 (グループ別)	食 堂
	19:00-19:30	挨拶、オリエンテーション、委員講師紹介	研修会場
	19:30-21:30	<特別公演> : 『メキシコ地震現地調査報告』 日本大学工学部教授 守屋喜久夫氏	"
5日 (土)	08:00-09:00	朝 食	食 堂
	09:00-09:05	開会の辞	研修会場
	09:05-09:30	<ケース・テタディ> -導入及びシミュレーション方式の説明	"
	09:30-10:40	-設問 1 (出発まで)	"
	10:40-10:50	コーヒープレイク	"
	10:50-12:00	-設問 2 (現場まで)	"
	12:00-13:00	昼 食	食 堂
	13:00-14:30	-設問 3 (活動計画)	研修会場
	14:30-15:30	-設問 4 (診療にあたって)	"
	15:30-15:40	コーヒープレイク	"
	15:40-16:40	-設問 5 (文化的側面)	"
	16:40-17:30	-設問 6 (撤退にあたって)	"
	17:30-17:40	JICAより報告	"
	17:40-18:00	休 憩	
	18:00-19:00	夕 食	食 堂
19:00-20:00	<特別講義> “個人衛生について” (今川委員)	研修会場	
20:00-22:00	懇 親 会	食 堂	
6日 (日)	07:00-08:00	朝 食	食 堂
	08:00-08:10	無線機の使い方等実演	研修会場
	08:10-08:20	野外訓練の方法説明	"
	08:20-08:30	野外への移動	
	08:30-11:00	野外訓練	野外訓練場
	11:00-11:30	休 憩	
	11:30-13:00	昼食及び修了式 修了証書授与 講 評 閉会の辞	食 堂

国際救急医療第6回研修会参加者名簿

	氏名	職種	所 属	備 考
1	上馬場和夫	医師	柴又診療所所長	
2	上原 鳴夫	”	滋賀医科大学 第一外科	
3	上村 孝臣	”	朝霞厚生病院附属上村脳疾患研究所所長	
4	内野 和顕	”	横浜市立大学医学部 第二内科	
5	岡部 信彦	”	国立小児病院 感染科	
6	坂田 育弘	”	近畿大学医学部救命救急センター	
7	沢村 豊宗	”	沢村病院院長	
8	猿山 雅清	”	大阪府立千里救命救急センター	
9	田口 隆司	”	大阪府立千里救命救急センター	
10	谷口 勝俊	”	和歌山県立医科大学 消火器外科	
11	戸田 均	”	南大阪病院 内科医長	
12	灰塚省二郎	”	厚生連吉田総合病院副院長	
13	牧野 俊郎	”	日本医科大学救命救急センター	
14	水井 伸子	”	燕労災病院 理学診療科	
15	山口 孝治	”	横須賀共済病院	
16	飯島 一枝	看護婦	昭和大学病院	
17	太田 豊子	”	佐世保中央病院 整形病棟	
18	長田 妙子	”	北里大学病院	
19	黒川 彰子	”		
20	佐々木忠一	看護師	(有)エフ	
21	田中かほる	看護婦	佐世保中央病院 外科病棟	
22	矢嶋 和江	”	昭和病院	
23	山口 加織	”		
24	吉澤登司枝	”	大阪府立千里救命救急センター	
25	小倉健一郎	調整員	佐賀医科大学	
26	葛西 義弘	”	カサイ整骨院院長 (X線技師)	
27	川崎 洋介	”	(株)総合防菌研究所	
28	神崎 修	”	門川水産加工業協同組合	
29	北原 歌子	”	和泉短期大学児童福祉学科教授	
30	佐々木敬次	”	(有)東郷&アソシエーツ	
31	藤澤真利子	”		
32	本多 健一	”	(財)アジア福祉教育財団難民事業本部	

	氏名	職 種	所 属		備 考
33	宮尾真矢子	調整員	自営（内装設計キャット・インテ）		
34	宮川 哲夫	"	緑成会病院リハビリテーション部		
35	宮西 節子	"	天理よろづ相談所病院 検査技師		
36	村山 英司	"	自 営（農業）		
37	渡部 直人	"	自 営（農業）		
38	本多 憲児	委員長	東北循環器科病院院長		
39	石田 詔治	委 員	兵庫医科大学救急部助教授		
40	稲田 美和	"	日本赤十字社衛生部看護係長		
41	今川 八束	"	都立墨東病院感染症科部長		
42	鶴飼 卓	"	大阪府立千里救命救急センター副所長		
43	奥村 悦之	"	高知学園短期大学保健科教授		
44	高橋 有二	"	日赤医療センター第1外科副部長		
45	田中 茂	"	埼玉県医師会参与		
46	谷 莊吉	"	富士通川崎病院健康管理部長代理		
47	東浦 洋	"	日本赤十字社外事部外事第1課長		
48	山本 保博	"	日本医科大学救命救急センター助教授		
49	守屋喜久夫	講 師	日本大学理工学部教授		
50	村瀬 吉隆	"	日本赤十字社東京都支部普及課長		
51	大島 賢三	事務局	外務省経済協力局技術協力課課長		
52	窪田 博之	"	" " 技術協力課		
53	鈴木 潔	"	国際協力事業団経理部会計第1課		
54	稲田 武司	"	" 青年海外協力隊事務局参事		
55	木村 勤	"	青年海外協力協会事務局長		
56	小畑美知夫	"	国際協力事業団医療協力部長		
57	南 経子	"	" " 管理課		
58	高田 裕彦	"	" " 医療協力課		
59	有山 茂子	"	" " "		
60	渡辺 正夫	"	" " 特別業務室 室長代理		
61	高木 繁	"	" " " 室長代理		
62	大倉 理	"	" " "		
63	表 光代	"	" " "		
64	新納 宏	"	" " "		
65	稲田 素子	"	" " "		

	氏名	職種	所 属		備考
66	河村 恵子	事務局	国際協力事業団医療協力部特別業務室		
67	山下 浩一	アドバイザー	国土庁防災局震災対策課計画係長		
68	尾崎 研哉	”	消防庁救急救助室救急救助第一係長		
69	鈴木 洋康	”	警視庁警備部災害対策課		
70	大久保安広	”	海上保安庁羽田特殊救難隊基地特殊救難隊長		
71	森本 勝	”	国際協力サービスセンター総務部長		
72	杉本 圭司	”	” ” 業務第二部		
73	松下 裕子	”	” ” ”		
74	鎌田 昌弥	ビクター	田中病院副院長		

Case Study メキシコ地震

災害概要

昭和60年9月19日午前7時18分（日本時間同午後8時18分）メキシコ太平洋の沖、約65kmの海底を震源地とするマグニチュード8.1の大地震が発生した。米国コロラド州UPIからの至急電によるとメキシコ市と外部との通信は全く途絶し、メキシコ市自体も強い地震に見舞われ電気、電話回線が切れたほかビル崩壊など相当な被害が出ている模様であるとの情報が同夜11時20分外務省及び各新聞社に入ってきた。

9月20日の朝刊は各紙とも速報として載せたが、被害の程度はメキシコ市との電話、テレックス等通信手段が途だえているため犠牲者は100人以上と米国から報道を伝えている。

ところが、日本時間20日午前15分中米経由の特別回線が確保され在メキシコ大使館より得た情報によると被害ははるかに大きく、メキシコ市を中心に中央3州にわたっていることが判明した。メキシコ市ではアパートやホテルが倒壊したうえ、水道管の破裂、都市ガスの噴出で市民はパニック状態になっていると伝えてきた。同時に大使からの報告によるとデラマドリ大統領は直ちに非常事態宣言を出し、軍隊を動員して倒壊ビルの下敷きとなっている住民の救出作業に当たっている。また現地時間、同日夕までに250人の死亡が確認されたとメキシコ政府の公式発表があったという。

外務省は、在メキシコ国日本大使に人道的立場からJMTDR派遣の用意があることを直ちにメキシコ政府に伝えるよう指示した。それに対し、午前6時50分至急電にて「メキシコ政府は日本からの暖かい援助の手を一刻も早く差し伸べてくれることを期待し、JMTDRの派遣をお願いします」との返電が入った。

9時20分午前8時、JICAは直ちに出発準備に入った。同日、午後8時30分の日本航空ロスアンゼルス行きで、同地よりエアロメキシカーナに乗り継いで行くのが最も速い飛行機便であることが分かった。またチームは医師3名・看護婦6名・調整員3名のフル編成と決まった。

旅程は次のとおり。

9月20日

20:30 成田発 J L 064 (B747)

同日

14:15 ロスアンゼルス着

19:00 ロスアンゼルス発 MX740 (B727S)

23:25 メキシコシティー着

登録者であるあなたは午前8:30に出動要請の電話を受け、あなた自身は参加する意志を固めた。出発前、午後4:00にJICAに集合との連絡があった。

メキシコで大地震

M7.8 犠牲100人以上



【ワシントン支局十九日】米地質調査局が十九日発表したところによると、日本時間午後十時十八分（現地時間午前七時十八分）メキシコ市の南四百キロの海底を震源地とするマグニチュード7.8の

地震が起きた。被害の程度はメキシコ市との電話回線が不通のため明らかではないが、地震は米南部テキサスでも感じられる大規模なもので、同市中心部の犠牲者は百人以上に達するといふ。

ハワイの津波情報センターは、地震の規模から考えて津波が極めて破壊的な被害をひき起す可能性があるをみて、津波警戒警報を発令した。大正十二年（一九二二）に起きた関東大震災は、マグニチュード7.9で、今回のメキシコ地震はこれと同程度の規模で、しかも震源地が陸に近いことから、かなりの被害が出るものと見られる。

外部との通信途絶
【コルマン（米コロラド州）十九日ロイター共同】十九日メキシコ西海軍で発生した地震で、メキシコ市と外部との通信が途絶した。当初の報告では、同市も強い地震に見舞われ電気が切れビルなどに被害が出ているもよう。テレックス回線も不通。メキシコ沖の地震で、十九日午後十時三十分から、日本とメキシコを結ぶ電話とテレックス回線が不通となり、二十日午前一時現在も不通の状況が続いている。ロイター国際通信社では、直前の見通しは立っていないとしている。

メキシコ西岸からの津波が伝わる時間は、ハワイまで八時間、東京まで十五時間。同課はハワイの太平洋津波警報センターと連絡を取り合い、監視体制をとっているが、二十日午前一時現在、同センターから津波を察知したという連絡は入っていない。

震源地アカプルコ沖
気象庁の観測によると、震源地はアカプルコの北西約二百五十キロ。同庁地震課によると、この地域では、一九〇三年に、マグニチュード8.3の地震があったが、わが国での被害記録はなく、太平洋をはさんで日本の正反對側となる南米での地震に比べて、津波の伝わり方が少ない地域とみられている。

メキシコ概要

1. 地理、気候

(1) 地理

メキシコ（日本語通称「墨国」）は、国土の総面積が1,972,564 平方キロメートルありわが国の5倍強の大きさで、ラテン・アメリカではブラジル、アルゼンティンについて3番目の大きさである。

北はアメリカ合衆国のテキサス、アリゾナ、ニューメキシコ及びカリフォルニア州に、南はグアテマラおよび英領ホンデュラスと国境を接している。また、東部はメキシコ湾とカリブ海に、西南は太平洋に面しており、非常に長い海岸線を有している。

海岸地帯と南東部のユカタン半島を除く国土の大部分が海拔1,000メートル以上の高地によって占められており、2,000メートルを越す地域も多く、いわゆる山丘、高原地帯でなりたっている。

メキシコ市は四方を山並みに囲まれた平均海拔2,240メートルの高原盆地にあるため、個人差はあるものの、頭痛、睡眠不足等軽い高原病の症状を訴えるケースが見られる。

なお、メキシコがアメリカとざっと2,600 kmにも及ぶ国境を接することに加え、1840年代後半にテキサス地方をアメリカに併合され、かつ、米墨戦争で現在のアメリカの領土であるニューメキシコ、アリゾナ、コロラド、ユタ、ネバダ、カリフォルニアの地域を含む広大な領土を失ったことは、米墨関係に常に微妙な影響を与え続けており、将来とも諸々の社会、政治、経済的問題を惹起して行くであろう。

(2) 気候

メキシコのはゞ中央部を北回帰線が通っており、大ざっぱに、北部は乾燥地帯、南は貿易風地帯と云えるものの、緯度はもちろんのこと高度、山脈、気圧、降雨などの影響を強く受け特異な気候を呈し、海拔1,000メートル以下の熱帯、亜熱帯と1,000メートル以上の温帯に分けられる。

メキシコ市を中心とする中央高原は温帯に属しているものの、日本のような四季の変化にはとぼしく、主として6月～9月の雨季と10月～5月の乾季に分けられるのが適当で、10月～1月はいわゆる冬にあたる。雨季にはほとんど毎日午後驟雨に見舞われる。月間平均最高気温が24℃～26℃、同最低が6℃～7℃で年間を通じ温暖な気候と云えるが、一方気温の日較差は甚だ大きい上、晴天、曇天による気温の上昇、下降も著しいため通年薄手のセーターは手離せない。

なお、カリフォルニア半島および北部の諸域は乾燥地帯で夏季には40℃を越すこともめずらしくなく、メキシコ湾岸の低地は一般に高温多湿である。

2. 人口、人種、宗教

(1) 人口

メキシコでは、10年毎に人口センサスがおこなわれているが、1980年6月4日に実施されたそれによれば（本稿作成時では中間発表数字）総人口は67,405,700人で、うち16,919,600人即ち25%強が連邦区およびメキシコ州のいわゆるメキシコ大都市圏に集中していることが判明した。

メキシコ市以外の大都市では、中部高原の文教都市グァダハラ市および北部の工業都市モンテレイ市が著名である。

従前人口増加率は世界最高水準の3.6%といわれていたが、現政権の主要施策の一つが人口抑制で1982年末までにこれを2.5%に減少せんとマスコミを動員し懸命にキャンペーンしている。

(2) 人種

人種構成（このことを云々すること自体あまり意味はないのだが）は資料によりさまざままで定かではないが、メスティーソと呼ばれる白人と原住民の混血が全人口の60%を占め、原住民が25%、残る15%が白人その他と云われている。黒人は殆ど見かけない。

(3) 宗教

信教の自由は憲法により保障されているが、ほかのラテン・アメリカ諸国と同様に国民の大部分がカトリック信者で、市中はもちろん全国いたるところで教会が目につく。

宗教的行事が国民一般に割合浸透しており、国祭日との関連も大きい。

もっともほかのカトリック国に比べれば、国政レベルの諸分野における教会の影響力はかなり弱いようだ。

3. 医療事情

a) 医療機関数及び病床数

TYPE

T : Total Establishments

A : Government Establishments

B : Private Non-Profit Establishments

C : Private Profit Establishments

Category	Type	1974 (POP. 58, 120, 000)	
		Establishments	Beds
General Hospital	T	745	33,702
General Medicine			8,054
General Surgery			6,611
Obstetrics and Gynaecology			6,164
Paediatrics			4,697
Infectious Diseases			84
Convalescence			270
Other and Unspecified			7,822
Local or Rural Hospital	A	250	14,020
Medical Centre	A	414	5,570
Specialized Hospital			
Maternity Hospital	T	100	2,350
Paediatric Hospital	T	21	2,469
	A	9	1,950
	B	6	353
	C	6	166
Cancer Hospital	T	2	85
	A	1	61
	C	1	24
Cardiology Hospital	A	1	153
Gastro-Enterology Hospital	A	1	160
Rehabilitation Centre	C	2	80
Traumatology Hospital	T	3	186
	A	2	180
	C	1	6
Tuberculosis Hospital	A	2	723
Mental Hospital	T	27	6,182
	A	14	4,368
	B	1	168
	C	12	1,646
Neuro- Psychiatry Hospital	A	1	124
Chronic Diseases Hospital	A	1	396
Leprosy Hospital	A	1	422
Other	T	4	741
	A	3	621
	B	1	120
Total	T	1,575	670,363

(World Health Statistics Annual)

b) 医療従事者数及び人口に対する割合

i) 医療従事者

H : Personnel in Hospitals and Other Health Establishments

+ : Entry Used for Calculation of Population/Nursing and Midwifery

Personnel Ratios

Medical and Allied Health Personnel	1974 (pop. 58, 120, 000)
Physician	46, 473
Dentist	1, 879H
Dental Technician	38H
Pharmacist	112H
Midwife	277H +
Nurse- Midwife	255H +
Assistant Midwife	102H +
Nurse	17, 394H +
Assistant	23, 604H +
Nursing Auxiliary	9, 481H
Physiotherapist	349H
Dietitians	65H
Nutritionist	414H
Medical Laboratory Technician	1, 643H
Medical Laboratory Assistant	1, 617H
X-Ray Technician and Assistant	1, 144H
Sanitary Engineer	7H
Sanitarian	92H
Health Inspector	462H
Chemist	1, 554H
Psychologist	205H
Biologist	40H
Medical Statistician	28H
Health Educator	18H
Anesthesia Technician	135H
Cardiology Technician	14H
Encephalographer	35H
Medical Social Worker	1, 509H
Other Technician in the Field of Health	235H

(World Health Statistics Annual)

ii) 医師・看護婦の人口に対する割合

H : personnel in Hospitals and Other Health Establishments.

Year	Physician		Midwife and Nurse	
	Rate p. 10000pop.	Pop. per Physician	Rate p. 10000pop.	Pop. per Midwife and Nurse
1950	4.45			
1960	5.61			
1970	6.92			
1974	8.00	1,251	7.16H	1,396

(World Health Statistics Annual)

(c) 平均寿命・乳児死亡率

i) 平均寿命 男69歳 女76歳 (現代用語の基礎知識 1986)

ii) 乳児死亡率 (出生千対)

Late Fetal Deaths: Fetal Deaths after at least 28 Weeks' Gestation.

Fetal Deaths of Unknown Gestational Age are

Included.

Infant Deaths: Deaths under 1 Year

Neonatal Deaths: Deaths under 4 Weeks

Post-Neonatal Deaths: Deaths from 4 Weeks to under 1 Year

Perinatal Deaths: Late fetal Deaths and Deaths under 1 Week

	Late Fetal Mortality		Infant Mortality		Neonatal Mortality		Post-Neonatal Mortality		Perinatal Mortality	
	Number	Rate	Number	Rate	Number	Rate	Number	Rate	Number	Rate
1976	40,216	18.6	122,309	57.0	46,672	21.6	76,301	35.4	70,106	32.5
1977			105,309	46.2						
1978	34,694	14.8	93,257	39.7	34,822	14.8	58,435	24.9	55,804	23.8
1979	34,708	14.2	94,972	38.8	39,656	16.2	55,316	22.6	61,650	25.2
1980			98,500	40.3						

(World Health Statistics Annual)

d) 10 大疾患・10大死因

i) 伝染病の10大疾患と罹患者数

1978		
1	Amoebiasis	148,551
2	Influenza	134,045
3	Gonococcal Infections: Incidence	20,487
4	Malaria: Incidence	19,080
5	Other Salmonella Infections	18,103
6	Chickenpox	17,523
7	Strep, Sore Throat & Scarlet Fever	14,770
8	Mumps	14,283
9	TB, All Forms: Incidence	10,158
10	TB, Respiratory System: Incidence	9,644
1979		
1	Ill-Defined Intestinal Infections	594,920
2	Amoebiasis	209,265
3	Influenza	134,809
4	Gonococcal Infections: Incidence	33,287
5	Mumps	22,224
6	Malaria: Incidence	20,983
7	Other Salmonella Infections	18,674
8	Measles	10,691
9	TB, All Forms: Incidence	9,989
10	Syphilis and Sequelae: Incidence	9,591

(World Health Statistics Annual)

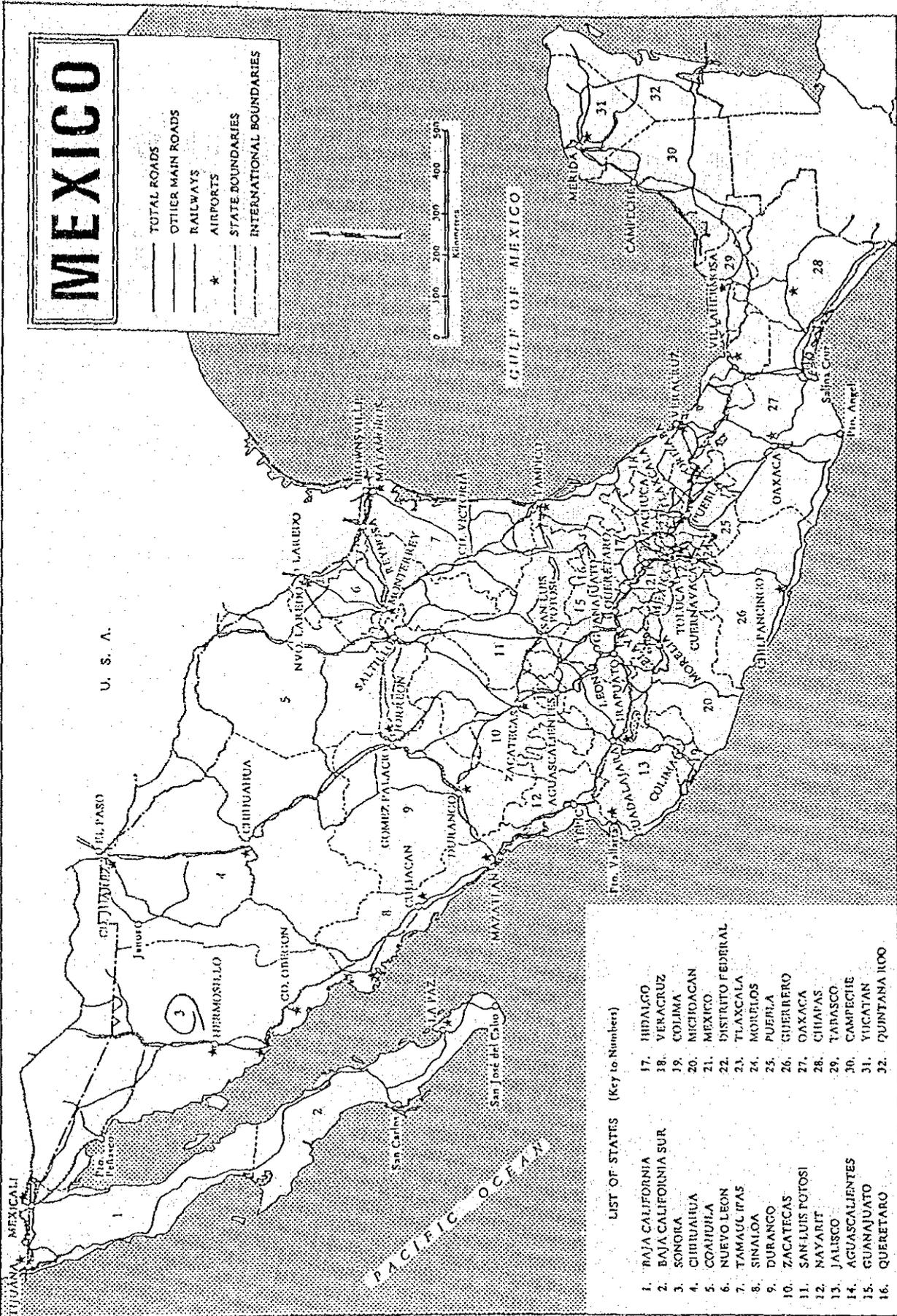
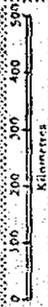
ii) ICD/A分類による死因順位及び死亡数

A list No.		1975	
1	I	Infective and Parasitic Diseases(A1-A44)	76,762
2	VIII	Diseases of the Respiratory System(A89- A96)	72,483
3	VII	Diseases of the Circulatory System(A80- A88)	64,954
4	5	Enteritis and Other Diarrhoeal	50,840
5	EXVII	Accidents, Poisonings & Violence(AE138-AE150) (External Cause)	49,932
6	XVI	Symptoms and Ill- Defined Conditions(A136 & A137)	49,271
7	91&92	Pneumonia	49,200
8	137	Symptoms and Other Ill- Defined Conditions	34,024
9	84	Other forms of Heart Diseases	30,558
10	IV	Diseases of the Digestive System(A97- A104)	27,404
A list No.		1979	
1	I	Infective and Parasitic Diseases(A1-A44)	82,938
2	VIII	Diseases of the Respiratory System(A89- A96)	82,235
3	VII	Diseases of the Circulatory System(A80- A88)	67,873
4	91&92	Pneumonia	55,409
5	EXVII	Accidents, Poisonings & Violence(AE138-AE150) (External Cause)	53,326
6	5	Enteritis and Other Diarrhoeal Diseases	51,103
7	XVI	Symptoms and Ill- Defined Conditions(A136 & A137)	44,846
8	84	Other forms of Heart Diseases	31,116
9	137	Symptoms and Other Ill- Defined Conditions	29,180
10	IV	Diseases of the Digestive System(A97- A104)	26,656

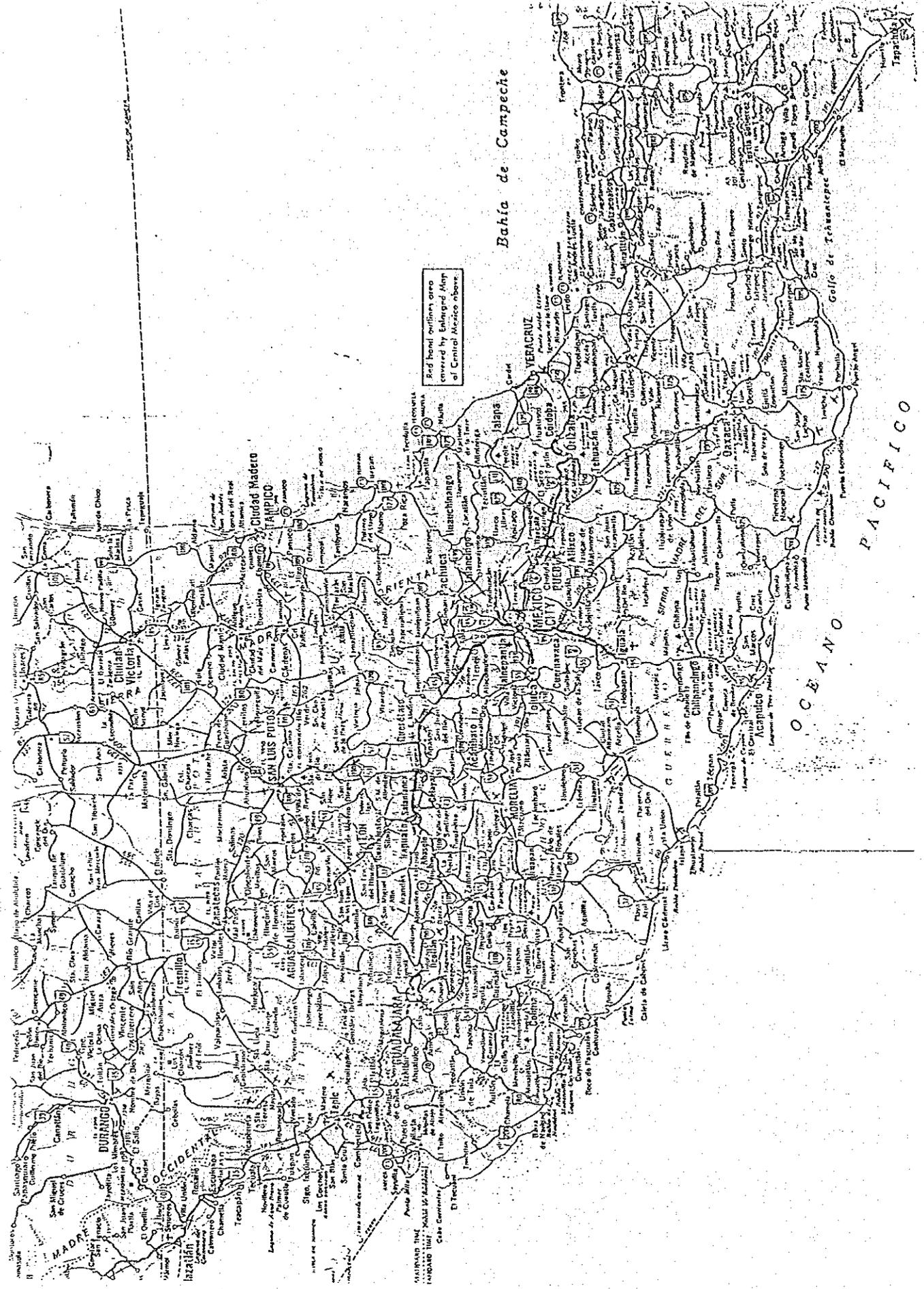
(World Health Statistics Annual)

MEXICO

- TOTAL ROADS
- OTHER MAIN ROADS
- RAILWAYS
- AIRPORTS
- STATE BOUNDARIES
- INTERNATIONAL BOUNDARIES



- LIST OF STATES (Key to Numbers)
- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. BAJA CALIFORNIA | 17. HIDALGO |
| 2. BAJA CALIFORNIA SUR | 18. VERACRUZ |
| 3. SONORA | 19. COJIMA |
| 4. CHIHUAHUA | 20. MICHOACAN |
| 5. COAHUILA | 21. MEXICO |
| 6. NUEVO LEON | 22. DISTRITO FEDERAL |
| 7. TAMASULIPAS | 23. TLAXCALA |
| 8. SINALOA | 24. MORELOS |
| 9. DURANGO | 25. PUEBLA |
| 10. ZACATECAS | 26. GUERRERO |
| 11. SAN LUIS POTOSI | 27. OAXACA |
| 12. NAYARIT | 28. CHIAPAS |
| 13. JALISCO | 29. TABASCO |
| 14. AGUASCALIENTES | 30. CAMPECHE |
| 15. GUANAJUATO | 31. YUCATAN |
| 16. QUERETARO | 32. QUINTANA ROO |



Red line outlines area covered by Enlarged Map of Central Mexico above.

Bahía de Campeche

OCEANO PACIFICO

設問 1. 出発まで

- (1) JICAにかけつけるまでに、あなたは何をしなければならないかを考えて下さい。
- (2) 個人装備としてあなたは何を準備しますか。
- (3) JICA集合時、オリエンテーションにおいてあなたは何を期待し、また何を確認したいですか。

設問 2. 現場到着まで

- (1) ロスアンジェルスで乗り継ごうとしたら、エアロメキシカーナのカウンターはパニック状態で最初の乗継便にはどうしても12人中6人しか乗れないことが分かった。
あなたがリーダーだったらどう対処しますか。
- (2) メキシコ市に全員が到着した時点で現地対策本部から、日本チームはメキシコ市より西北西に約580km離れたグアダラハラ（Guadalajara）に行ってくれと要請された。
しかし、グアダラハラに定期便で到着したとき、医薬品のダンボール箱が3個なくなっているのに気が付いた。チームとしてどう対処しますか。

グァダラハラ GUADALAJARA

ハリスコ州 Estado de Jaliscoの州都

メキシコ・シティの西、約 580キロ

中央高原北部の商・工・農業の中心地。メキシコ・シティに次ぐ、国内第2の活気あふれる大都市でありながら、スペイン統治時代の面影を随所にとどめ、優雅で清楚な“古都”の趣を併せもちます。市の創建は1542年。

グァダラハラとその周辺部は、メキシコを代表する音楽 — マリアッチ、民族舞踏 — ハラベ・タパティオ（タパティオはハリスコ州民の愛称）。酒 — テキーラなどの本場となっています。また、近郊に良質のオパール鉱山が発見されたため、ケタロと並ぶメキシコ・オパールの集散地としても重要です。

気 候

グァダラハラは“常春の都”と呼ばれ、冬の夜間に若干冷えこむほかは、1年を通じてさわやかで温暖な気候に恵まれています。雨季は6～9月で、夕方から夜にかけて、通常短時間の雨が降ります。

◆月別平均気温（℃）◆

気 温

(℃)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
最高	23.5	25.4	27.9	30.1	31.2	28.7	26.0	26.0	25.	25.5	25.2	23.6
最低	6.7	7.9	9.2	11.5	14.0	15.9	15.3	15.1	15.1	12.4	9.1	7.8

人口：約2,500,000 高度：1,567m

グァダラハラへの交通

<空 路>

メキシコ・シティから：Aerpmexico またはMexicana で55分。アカプルコから：Aerpmexico で1時間。国際線では、バンクーバーから：CP Airで5時間45分。ロサンゼルスから：Aerpmexico またはMexicana で2時間40分。

空 港 市の南18キロ。市内のホテルまでタクシーで約50ペソ。

<バ ス>

メキシコ・シティから：Tres Estrellas de Oro社の1等バスで10～14時間。82.50ペソ

<鉄 道>

メキシコ・シティから：メキシコ国有鉄道の列車で12～14時間。

設問 3. 活動計画

グアダハラ市の対策本部より状況の説明（別紙）があり、日本チームにはグアダハラ市内南西部の Sector JUARES（フアレス地区）が割り当てられ、地区のほぼ中央にある被害のなかった小学校（平面図別紙）で治療にあたってくれと要請があった。次の項目について、具体的な活動計画をたてて下さい。

- (1) 病棟設営
- (2) 医療計画

<対策本部よりの状況説明>

1. 被災詳細ははっきりしていないが、判明している限りの情報は次の通りである。
 - 1) 死者、行方不明 約 500名
 - 2) 重傷者 約 2,000名
 - 3) 軽傷者 約10,000名
 - 4) 倒壊家屋 約 1,000戸
2. メキシコからも数名ずつの医師、看護婦が配置されることになっている。
3. 近辺の病院は地震により壊滅状態で患者護送は不可能に近い状態である。

設問 4. 診療にあたって

重症用入院ベッド30床が出来上がり医療活動が開始された。

- (1) ベッドが満床のところ、救助作業中にビルが倒壊しガスが噴出して爆発したため、対策本部より30分後に重傷患者が30人送られてくるとの連絡が入った。どうしますか。
- (2) 被災者の1人が産気づいた。どうしますか。

設問 5. 文化的側面

- (1) 低たんぱく血症で浮腫のおばあさんがいます。ミルクを飲ませようとしたが宗教上の理由で拒否している。どうしますか。
- (2) JMTDRの手渡している薬は飲むなと患者たちに言いふらしている人がいるとのうわさを耳にした。

現に数人の患者が服薬を拒否している。どう対処すべきでしょうか。

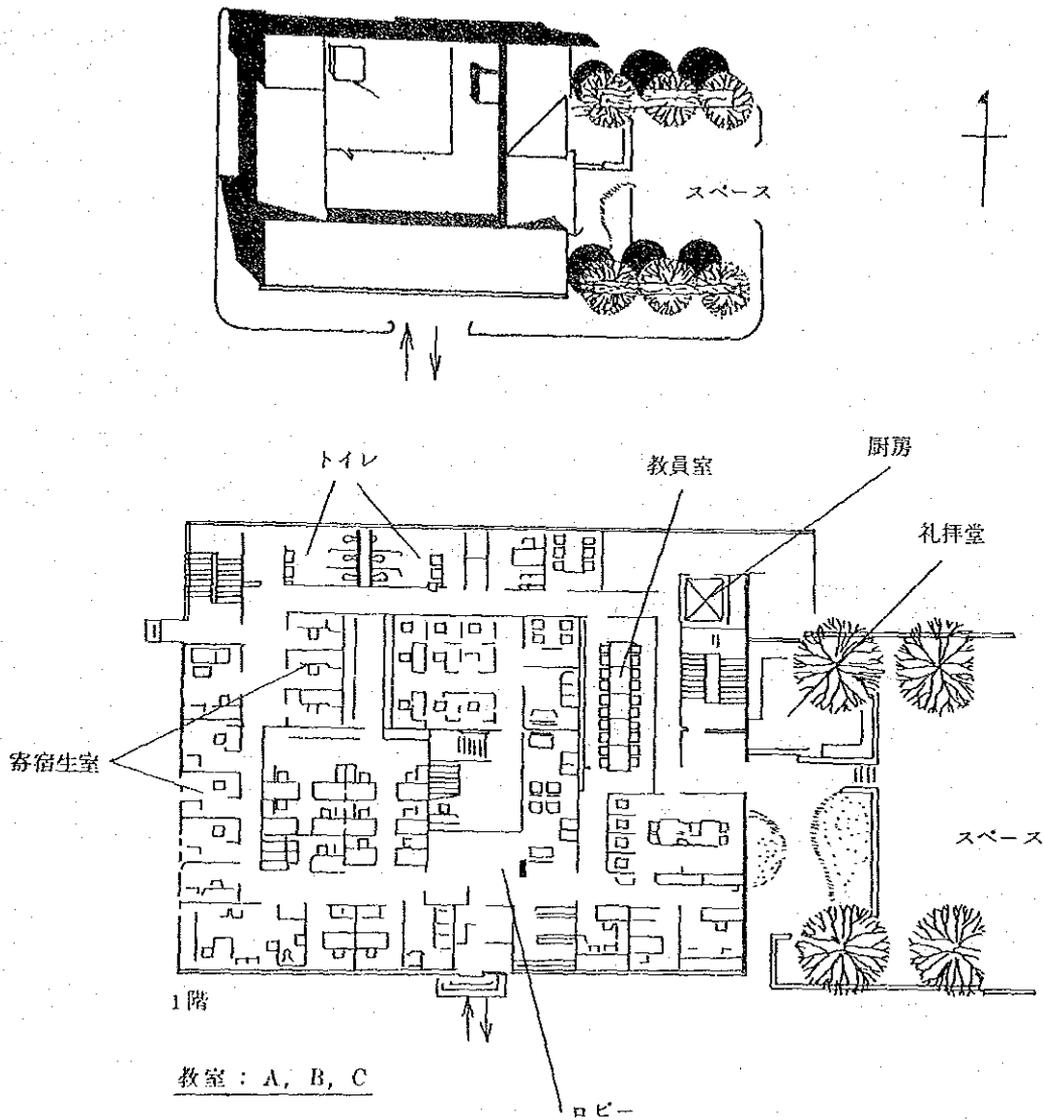
設問 6. 撤退にあたって

10日程たち、状況は落ち着いてきた。リーダーは2週間で撤退との基本方針で日本や大使館と連絡を取っている。

(1) 隊員のひとりがまだ状態の落ち着かない患者がいるので自分一人でも残りたいと言いだした。

チームとしてどう対処したらよいか。

(2) 撤退にあたって考えなければならないことは何ですか。



日本チームに与えられた小学校の見取図

資 料 (2)

国際緊急援助隊車両搭載試験関係

国際緊急援助隊車両搭載試験実施について

REVISED A G S. 15. 1986

日本航空成田航務部

1. 経緯及び目的

政府では、開発途上地域において大規模な災害等が発生した場合に、相手国の要請に応じ速やかに人員、資材等の派遣が出来る体制整備（「国際緊急援助隊」と総称する）を目指して来た。

その一環として、外務省並びに国際協力事業団（JICA）が主体となって、B-747-Fにより救助車両等を輸送する場合の問題点、所要時間等を検証する目的で、当社実機を使用して「国際緊急援助隊車両搭載試験」を以下のとおりに実施する。

当社は当該試験実施に協力して、人員、器材の提供並びに技術的援助を行なう。

2. 実施日時

1986年8月18日（月） 09:30L-16:30L

3. 実施場所

新東京国際空港 日本航空貨物ビル及び貨物地区スポット-212（別紙-1参照）

4. 実施要領及び参加者

別紙-2-(1)、-(2)及び別紙-3のとおり

5. 社内体制

対官庁渉外業務	企画室第一企画部（BAZ）
社内関係部門調整	国際貨物部（FIZ/R）
車両搭載方法技術的検討及び指示	制度部（FNZ/D）
PALLET積み付け指示、対税関渉外業務	成田貨物支店（FKV/P）
搭載取卸試験全般調整、対公団渉外業務	成田航務部（KOZ/P）
関係者の空港立ち入り、輸送手配	成田総務部（KGZ/S）

6. 搭載試験実施に係わる契約等

搭載試験実施に関わり必要とされる契約、保険の付与並びに諸経費の精算等については企画室（BAZ）が関係省庁との窓口業務を担当する。

当該試験に係わり発生した関連会社への支払い費用は成田航務部（KOZ/P）にて取りまとめ企画室（BAZ）へ報告する。

7. 準備日程

8月7日(木) 14:30-17:00 外務省 会議室

関係者打ち合わせ

8月12日(火) 14:00-17:00 運輸省 会議室

運輸省、空港公団、日航関係者打ち合わせ

8月13日(水) 13:15-14:30 成田O/C 5階 第5会議室

成田地区内日航関係者打ち合わせ

PKV/P, KGS/S, KRV, KOZ/P, AGS/NOD

8月15日(金) 10:30-12:00 外務省 会議室

関係者最終打ち合わせ

時間	実施場所	実施作業	対象器材	対象人員	備考
09:30	日航貨物ビル前駐車場 日航貨物ビル1階P.R室 成田支社長 藤野先社長	搭載試験用車両到着 PALLET積み付け、 TIE-DOWN作業関係者集合 全体スケジュール説明 (成田航務部) PALLET積み付け作業概要 説明 (成田貨物支店)	東京消防庁車両 計5台 搭載試験用車両 4台 救助工作車 2台 品川88す2090 足立88さ8417 J E P 2台 品川88す5485 品川88す5640 指揮/先導車 1台 品川59す2007	外務省 3名 運輸省 2名 自治省消防庁 2名 東京消防庁 14名 海上保安庁 1名 警察庁 3名 国際協力事業団 3名 国際協力N-EAT/KC- 2名 企画室 1名 国際貨物部 1名 成田貨物支店 1名 成田航務部 3名 AGS業務部 1名	東京消防庁にて救助工作車の取り付け品を取外し、救助資器材を取卸して空港送送する 指揮車、救助工作車及びJ E Pは東関東自動車道より第二ゲート、第二派出所を経由して日航貨物ビルへ - 成田総務部が空港公団へ事前に車両/人員リスト提出 - 成田貨物支店が貨物ビル前駐車場手配 - 成田航務部社員が第二ゲート出迎え、V I Pワッペン手渡し スカイライナー (京成上の発0800 L 京成成田空港着0907 L) 利用者は京成成田空港駅到着後、自航連絡バスを利用して日航成田オオベセン線 由日航貨物ビルへ右側階段 - 成田総務部が社外関係者の利用につき手配 - 成田航務部社員が空港駅にて出迎え、V I Pワッペン手渡し (出迎え出来ない場合又は予定変更時の連絡先 成田航務部 TEL 0476-32-3413) PALLET積み付け、TIE-DOWN作業の方法及び作業時間を確認する 作業方法は成田貨物支店が指示し、AGSが作業を実施する - AGS上屋要員(6名)は成田貨物支店が手配 - 救助工作車2台は高さを調節する為にタイヤの空気抜きが必要
10:00	日航貨物ビル 輸出上屋中庭	搭載試験用車両の PALLET積み付け作業 タイヤ空気抜き作業 TIE-DOWN作業	20-FT PALLET/DOLLY 2台 PALLET/DOLLY 2台 TT車 2台		
12:00	日航貨物ビル3階 食堂	昼食、休憩			
12:45	日航貨物ビル1階P.R室	関係者集合 PALLET積み付け作業、 TIE-DOWN作業結果の報告 (成田貨物支店) 搭載取卸作業予定の説明 (成田航務部)		上記に加え 空港公団 3名 企画室 1名	ランプ立ち入り許可証を受けていない日航社員にランプ立ち入り用腕章を渡す
13:00	貨物地区スポット-212	B-747-F (JA8160)を搭載 試験実施場所 (SPOT-212)へ移動させる	TOWING-CAR 1台 G P U 1台 M D L 1台 TAIL-STAND (FLY-AWAY TYPE) 1台 PAX STEP 1台 CREW-STEP 1台	成田整備工場 2名 AGS誘導員 3名	J A 8151はJ L 624(ST A I I 00 L)で到着予定 取卸作業完了後TOWINGによりSPOT-212へ移動、(停止位置は正規位置の5m後方)、G P U、M D L、TAIL-STAND、PAX-STEP、CREW-STEPをSETしNOSE CGO-DOORをOPENする (PALLET積み付け作業の結果、SIDE CGO-DOORを使用する必要がある場合は、SIDE CGO-DOORに変更する)

時間	実施場所	実施作業	対象器材	対象人員	備考
13:15	日航貨物ビル 輸出上屋中庭	搭載試験用車両の PALLET積み付け、 TIE-DOWN結果確認		全関係者	関係者は確認作業後、TATS RAMP BUS(日航貨物ビル前で待機)で第二監所を経由してSPOT-212へ移動 RAMP BUSは引き続き関係者の休憩場所として使用する為SPOT-212付近で待機 - RAMP BUSは成田航務部が手配 PALLETに積み付けた搭載試験用車両をSPOT-212迄搬出する (搬出経路は通常の輸出貨物の経路と同じ)
13:30	貨物地区スポット-212	搭載試験用車両を牽引し てSPOT-212迄搬出する 搭載取卸試験開始		AGS搭載部 4名 全関係者	救助工作車、JEBPの搭載取卸作業を実施して、搭載取卸時及び搭載位置におけるCLEARANCE、作業上の問題点並びに作業所要時間を確認する 搭載取卸作業は成田航務部が指示し、AGS搭載部が作業を実施する ①救助工作車1台を3R/4Rに搭載し、CLEARANCE 確認 ②上記を7R/8Rに移動しCLEARANCE 確認 ③他の救助工作車1台を7L/8Lに搭載しCLEARANCE 確認 ④JEBP 2台を4R/4Lに搭載しCLEARANCE 確認 ⑤上記①～④の逆に取卸作業 必要に応じて搭載位置を変更してCLEARANCEを確認する 又、必要ある場合はSIDE CGO-DOOR からの20-FT PALLET搭載取卸を行う - AGS要員(搭載取卸、搬送6名)は成田航務部が手配
15:00	貨物地区スポット-212	搭載試験終了 搭載試験用車両を牽引し て搬入する JA8151をTOWINGにより SPOT-212より整備地区へ 移動		全関係者 AGS搭載部 4名 成田整備工場 2名 AGS誘導課 3名	SPOT-212より日航貨物ビルへ第二監所経由でTATS RAMP BUS を使用して移動 - RAMP-BUSは成田航務部が手配 PALLET積み付けの搭載試験用車両を牽引して輸出上屋中庭迄搬入する(搬入経路は搬出経路の逆) JA8151はOVER-NIGHTの予定
15:15	日航貨物ビル	DE-PALLETIZE作業		全関係者	DE-PALLETIZE作業所要時間を確認
15:30	輸出上屋中庭 日航貨物ビル1階PR室	搭載試験用車両引き渡し 搭載試験結果につき総括 検討		全関係者	救助工作車の空気入れが必要-成田貨物支店にて手配 搭載試験全関係者により総括的な検討を行う
16:30	同上	全作業終了		解散	VIPワッペン、ランプ立ち入り腕章返却

国際緊急援助隊車両搭載試験参加者名簿

No.	氏名	所 属
01	和田 昌雄	運輸省国際運輸観光局国際協力課国際協力官
02	峯 裕	事務官
03	石塚 照美	海上保安庁警備救難部救難課事務官
04	塩口 哲朗	外務省経済協力局技術協力課主席事務官
05	大部 一秋	課長補佐
06	大窪 田博之	事務官
07	武藤 晴勇	警視庁災害対策課事務官
08	鈴木 洋康	"
09	中道 和則	"
10	池田 嘉弥	国際協力事業団医療特別業務室室長
11	高木 繁	室長代理
12	新納 宏	事務官
13	杉本 圭司	(財)国際協力サービス・センター業務第二部
14	長坂 光司	(長坂ソニー・ショップ)
15	尾崎 研哉	自治省消防庁救急救助室救急救助第一係長
16	水谷 哲	自治事務官
17	平井 清	東京消防庁管理課消防監
18	佐伯 明彦	消防副士長
19	櫻岡 定規	" 企画課消防司令
20	塩野目 勝	" 管理課消防司令
21	金子 照行	" 救助課消防司令
22	野呂 繁雄	" 航空隊消防司令補
23	堀内 省治	" 管理課消防司令補
24	山崎 正雄	" 救助課消防士長
25	石橋 公男	" 装備工場消防司令補
26	石川 平通	" 消防副士長
27	柴田 一昭	" 麴町消防署消防司令補
28	中山 竹広	" 消防士
29	三瓶 実	" 城東消防署消防士長
30	高橋 和興	" 消防士
31	玉城 勝也	新東京国際空港公団運用局運用管理室室長
32	安江 敬	前任管理役
33	多良木 繁次	保安部消防課長
34	足立 龍信	日本航空企画室第一企画部次長
35	中村 昭子	" 第一企画部
36	中村 孝	" 国際貨物部
37	田口 達也	" 成田貨物支店業務室長
38	真辺 秀範	" 成田貨物支店業務室
39	武田 治己	" 成田支店成田航務部ランプ業務室長
40	関 貞夫	" ランプ業務室
41	尾島 孝行	" 企画グループ次長
42	北村 徹	" 企画グループ
43	岩崎 精一	"
44	諸石 倫昭	A G S 成田支社業務部
45		

JICA